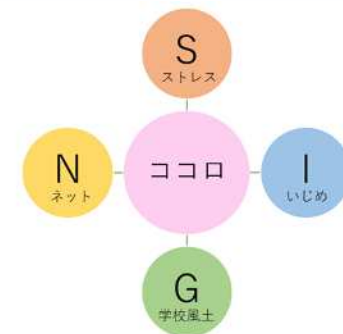


# 令和7年度 こころのSIGNアンケート(埼玉県児童生徒等実態調査)結果について

令和8年6月 埼玉県教育局市町村支援部生徒指導課

## 1 調査の趣旨

本調査は児童生徒のいじめ未然防止等の取組推進を目的として、県内(さいたま市除く)の公立学校に在籍する一部の小学生、中学生、高校生並びに保護者に対して行ったものである。いじめの加害行為の要因を探るため、いじめに対する項目に加え、ストレスや学校風土、ネットトラブルなど児童生徒の特性や取り巻く環境に係る項目を調査・分析した。



## 2 調査対象期間

令和7年11月から12月まで

## 3 調査対象

<対象学年>

- 小学校3年生、小学校5年生、中学校1年生、高等学校1年生

<対象校>

147校(小学校62校、中学校62校、県立学校23校)

- 市町村立学校については、さいたま市を除く県内62市町村の小学校1校、中学校1校を無作為に抽出した124校
- 県立学校のうち無作為に抽出した23校

校種	回答数
小学校	7,186 人
中学校	6,026 人
高等学校	4,926 人
保護者	4,664 人

## 4 調査項目・方法

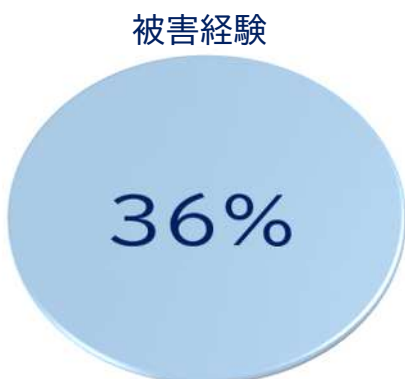
いじめ、ストレス、学校風土、ネットトラブルなどに係る項目を児童生徒・保護者が回答フォームに入力

未来を創る、こどもたち。  
未来を育てる、わたしたち。  
～未来への責任～

※本調査は県が独自に設定した項目で行い、学校がいじめ未然防止の取組を推進するための視点を得ることが目的の調査であり、学術的な結果を示すものではありません。

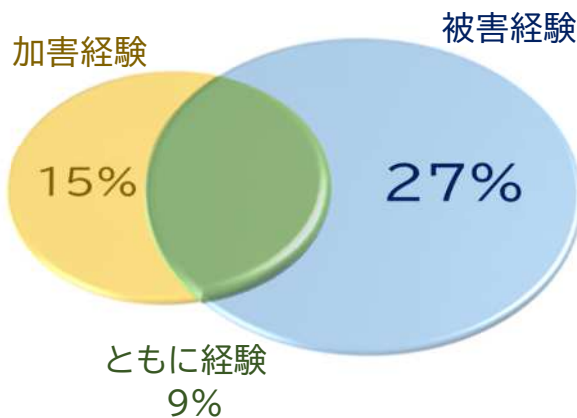
# I いじめ加害・被害の経験率について

小学校3年生

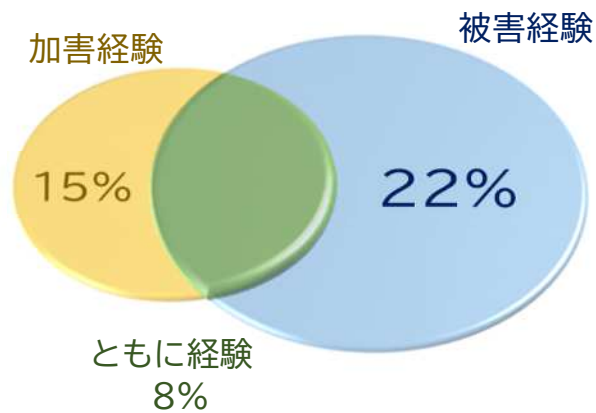


※加害経験は調査無し

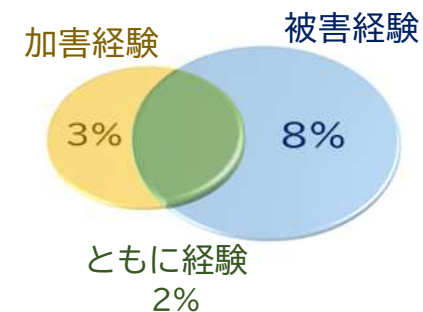
小学校5年生



中学校1年生



高校1年生



- 小学校3年生においては、被害経験がある児童の割合は全体の36%となり、学級の3分の1の割合である。
- 小学校3年生から高校1年生と年齢が上がるにつれて被害経験率は減少する。
- 小学校5年生、中学校1年生では、加害経験及び被害経験がある児童生徒は約10%となり、1学級に複数名の割合で在籍していると考えられる。

# I いじめ加害・被害経験の有無と各項目の関係について

## 《 相関表の見方 》

↔ 意味のある関連がみられる(加害経験)

↔ 意味のある関連がみられる(被害経験)

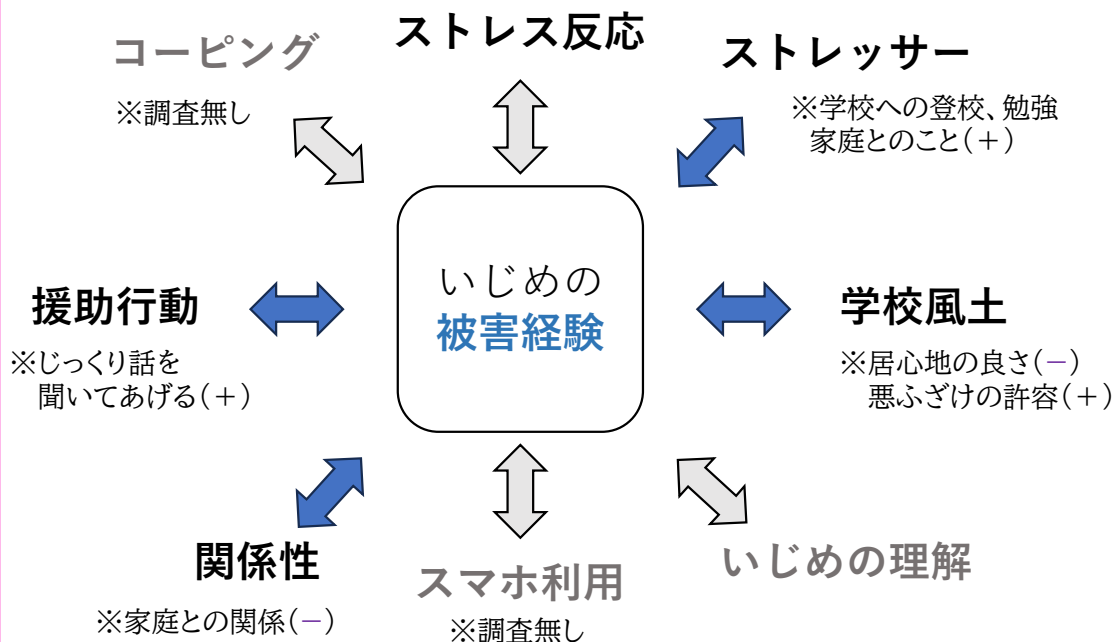
↔ 意味のある関連が見られない

※「意味のある関連」…統計処理による有意差  
確率的に偶然とは考えにくく、意味があると考えられる

(+) **正の関連**  
いじめ加害(被害)経験がある児童生徒の方が  
経験がない児童生徒より**数値が高くなった**項目

(-) **負の関連**  
いじめ加害(被害)経験がある児童生徒の方が  
経験がない児童生徒より**数値が低くなった**項目

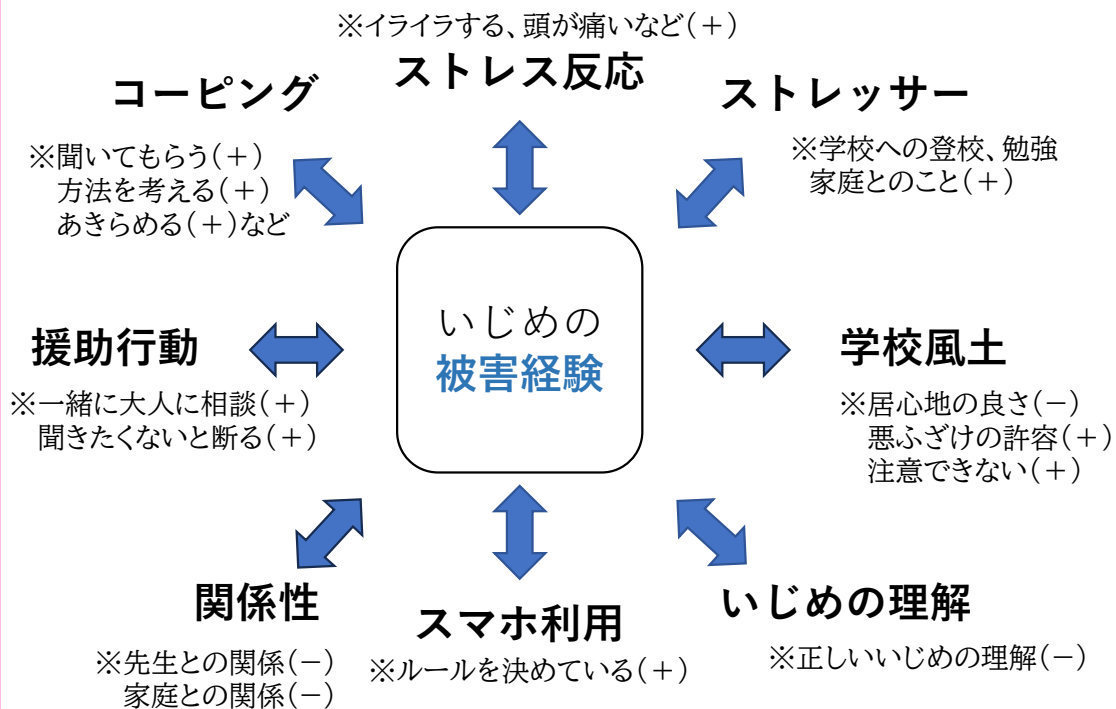
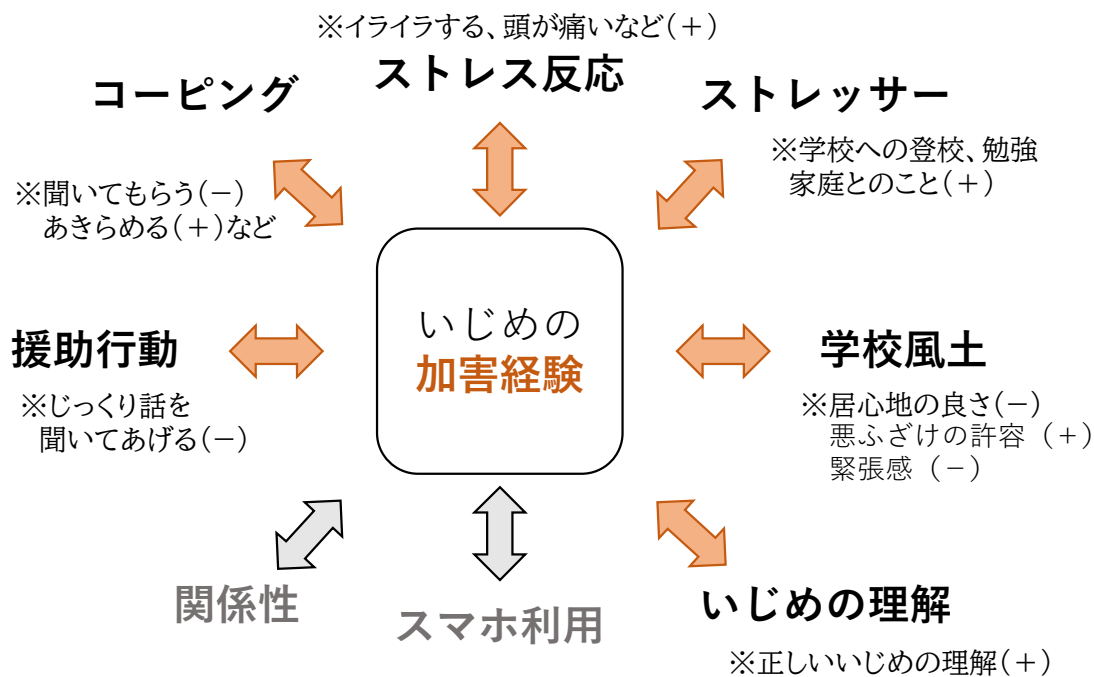
## 小 学 校 3 年 生



# I いじめ加害・被害経験の有無と各項目の関係について

## 小学校5年生

↔ 意味のある関連がみられる(加害経験)  
 ↔ 意味のある関連がみられる(被害経験)

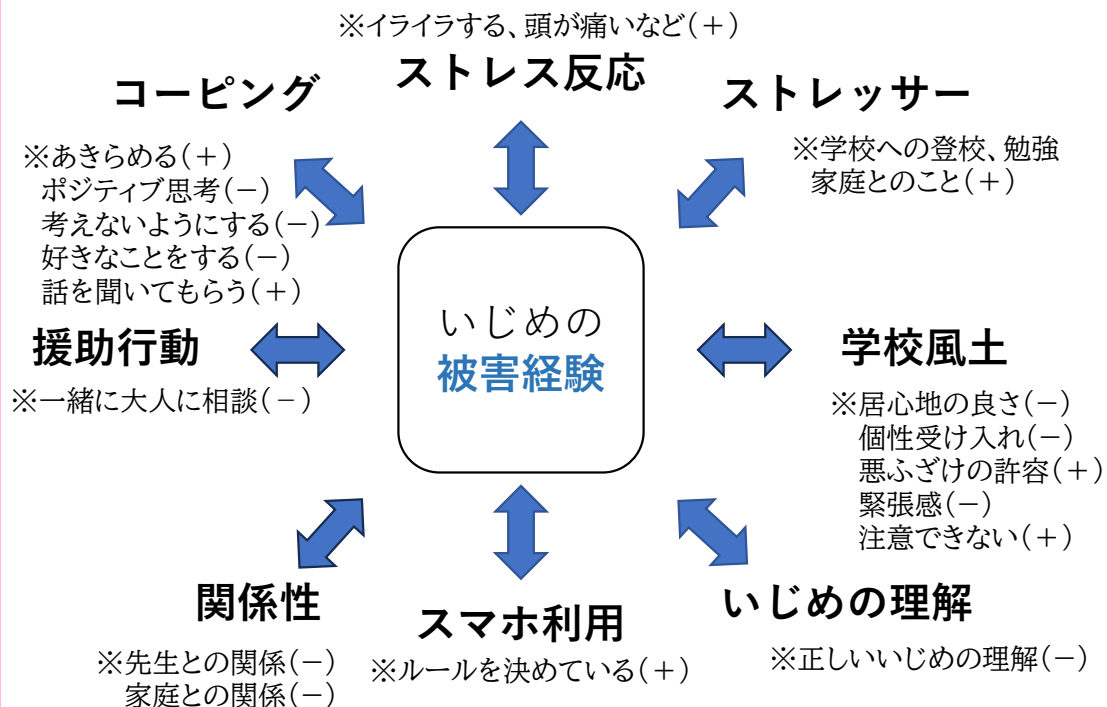
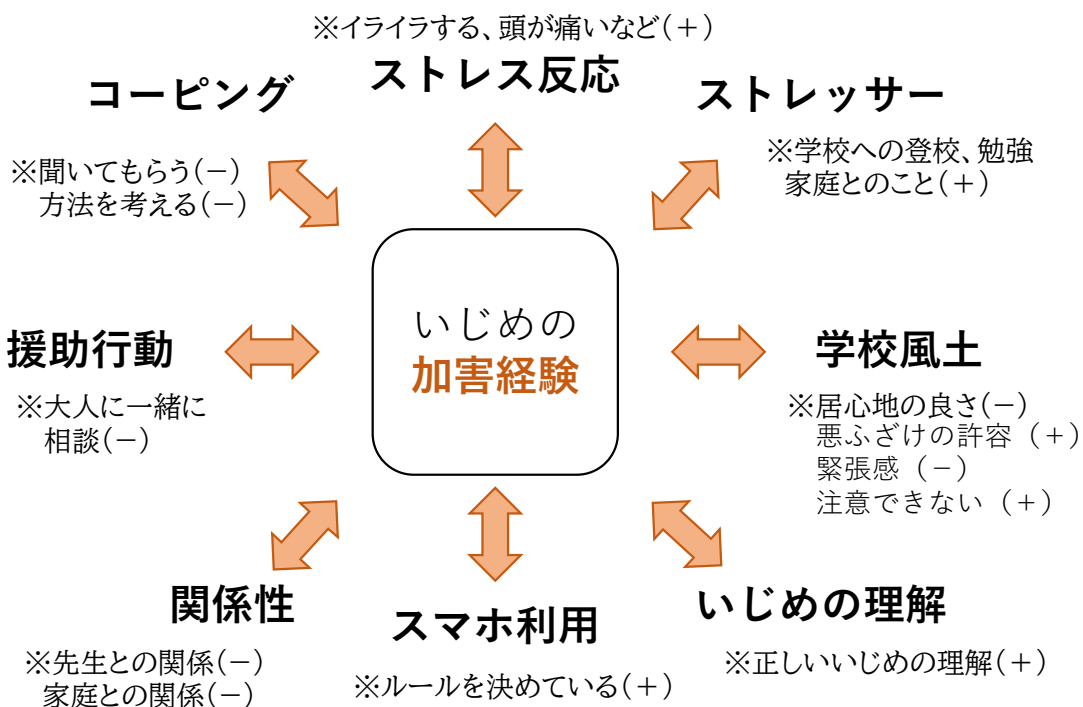


# I いじめ加害・被害経験の有無と各項目の関係について

## 中学校1年生

↔ 意味のある関連がみられる(加害経験)

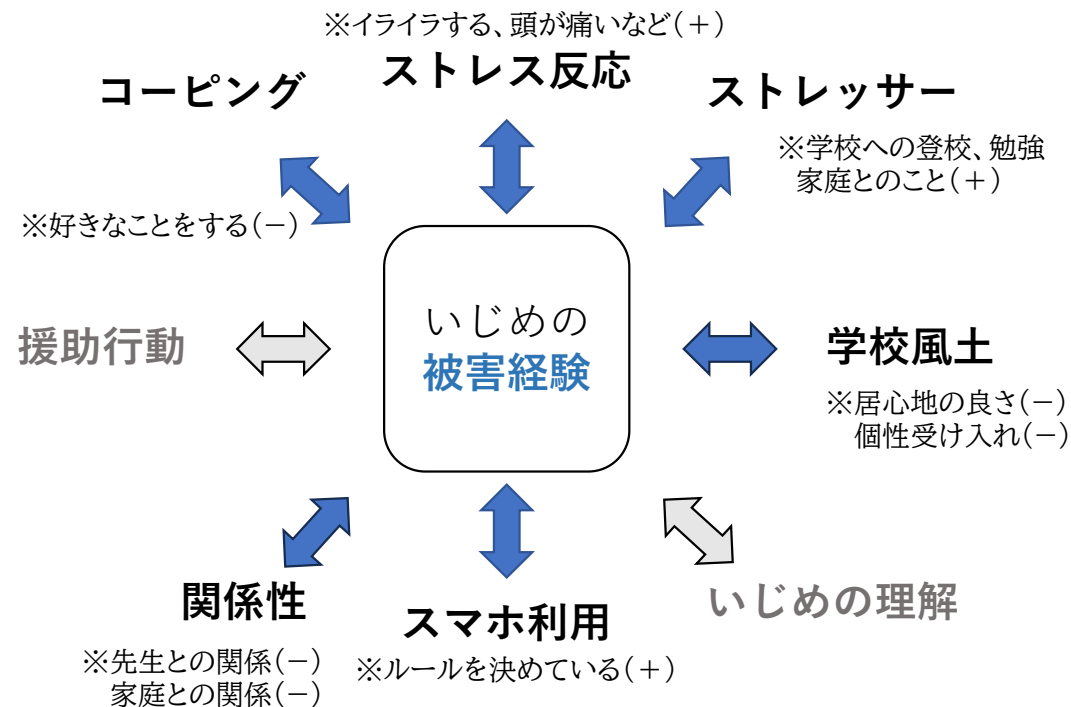
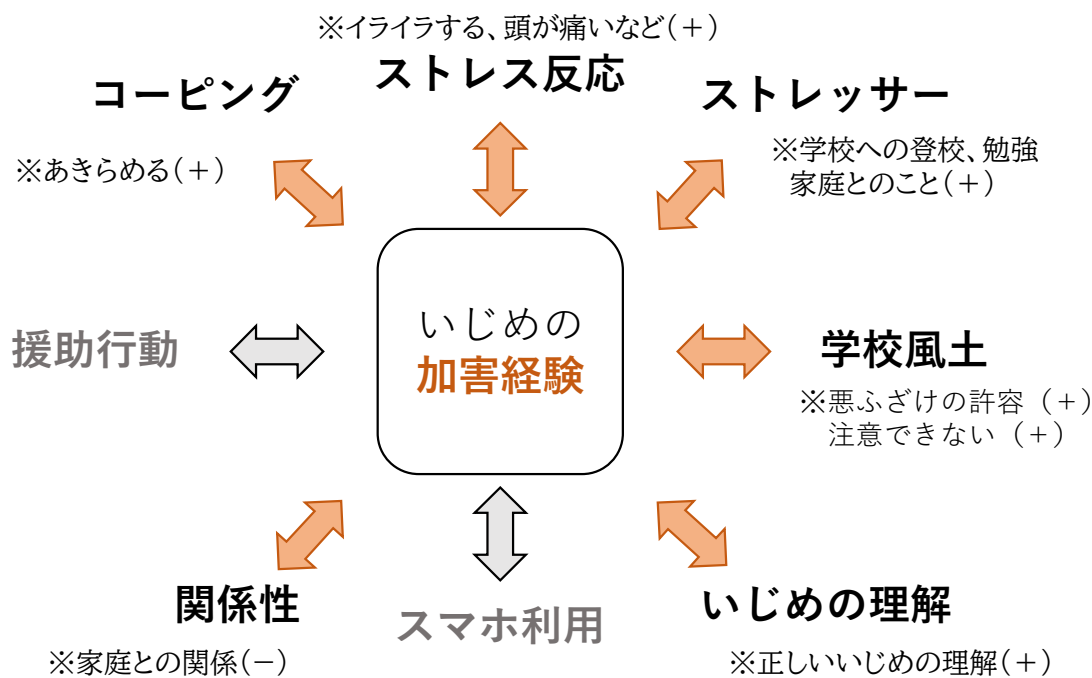
↔ 意味のある関連がみられる(被害経験)



# I いじめ加害・被害経験の有無と各項目の関係について

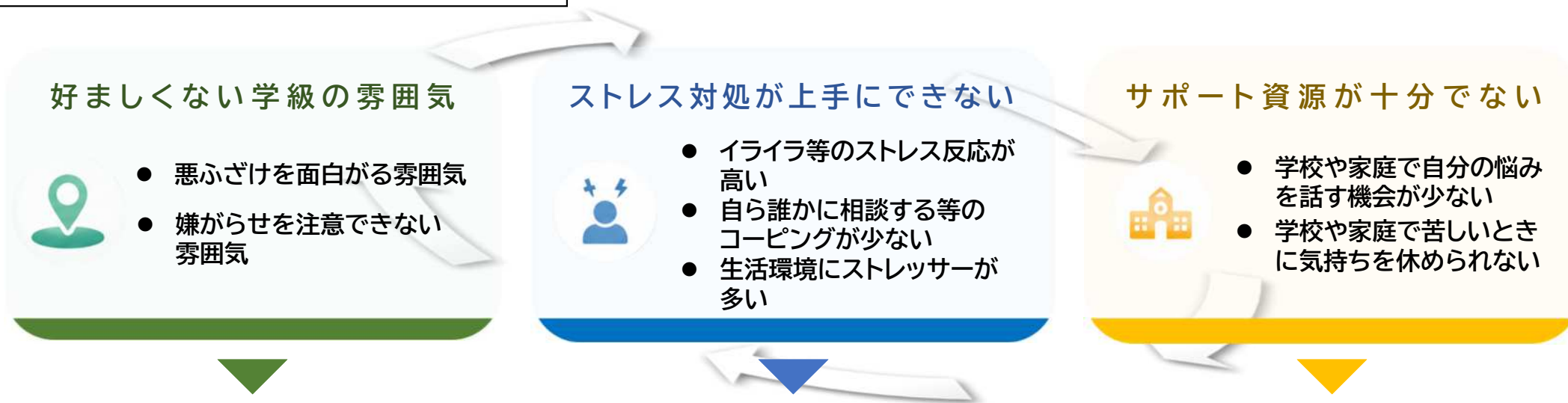
## 高校1年生

↔ 意味のある関連がみられる(加害経験)  
 ↔ 意味のある関連がみられる(被害経験)



# I いじめ加害・被害経験の有無と各項目の関係について

## 結果から見えたいじめ加害児童生徒像



## いじめ加害行為の可能性が高まる

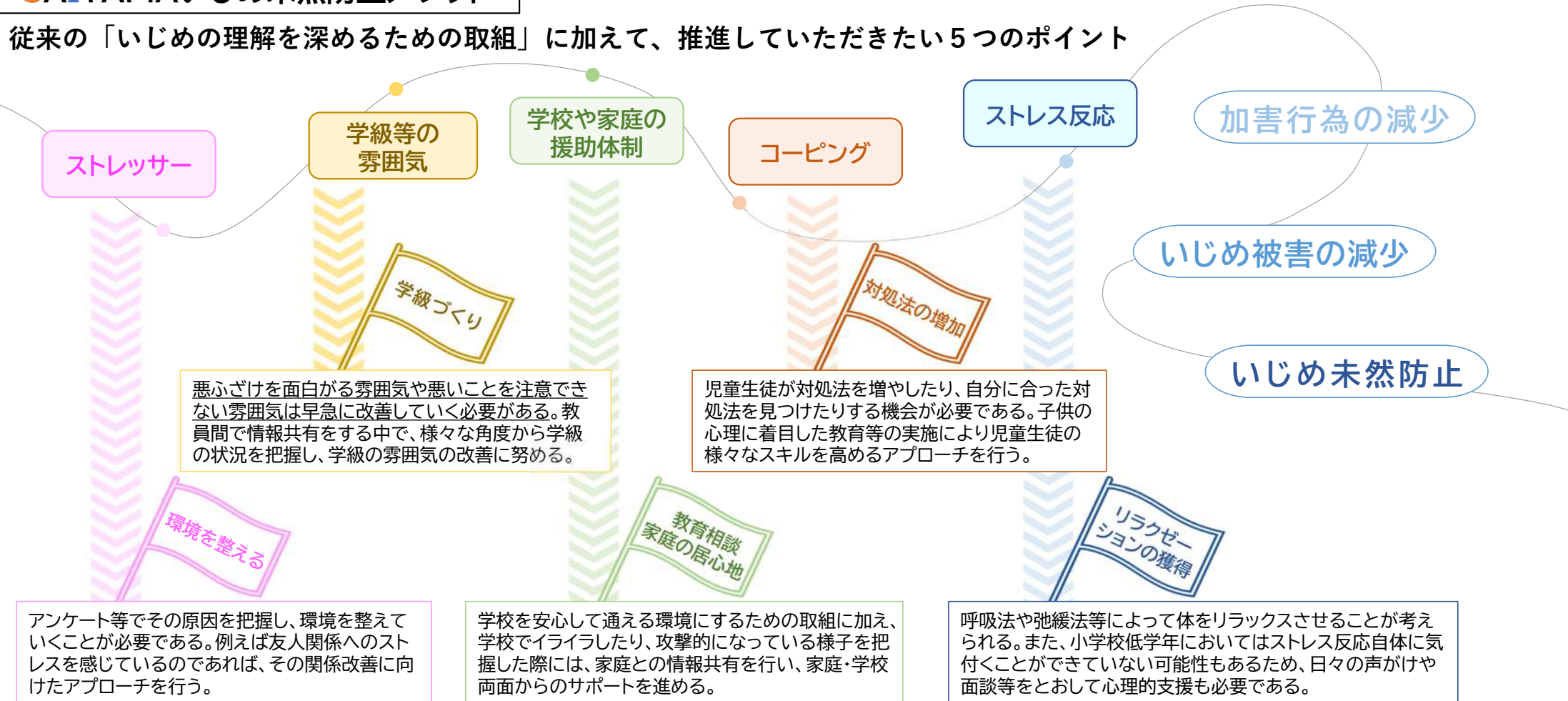
- ストレッサー: ストレスを感じる場面
- コーピング: ストレスへの対処法
- ストレス反応: ストレスによる心身への影響

※従来の心理研究結果によると、ストレス反応が高い場合にいじめ行為の可能性が高まることが示されている。

# I いじめ加害・被害経験の有無と各項目の関係について

## SAITAMAいじめ未然防止メソッド

従来の「いじめの理解を深めるための取組」に加えて、推進していただきたい5つのポイント



## 調査協力者について

### 【有識者(助言・分析)】

早稲田大学人間科学学術院  
昭和女子大学

嶋田 洋徳 教授  
緩利 誠 准教授

### 【データ処理】

早稲田大学大学院人間科学研究科  
行動臨床心理学研究室

石川 律  
横原 希美  
春日 佑都  
川田 千夏  
佐々木 陽向

